



手描きならではの温もりが  
毎日の食卓を楽しく彩る。

# 有限会社翔芳窯



## 有限会社翔芳窯

長崎県東彼杵郡波佐見町折敷瀬郷761-8  
TEL/0956-85-4724  
FAX/0956-59-4660  
HP/https://shop-shohogama.com/  
MAIL/fly-by-mypower@sky.plala.or.jp

代表取締役/福田雅樹  
設立/1997年7月28日  
資本金/3,000,000円  
業種/窯業土石製品製造業  
従業員数/16名



昭和47年、焼きものの町・波佐見町にて生地専門店を創業。その後、平成2年に翔芳窯を設立し、陶磁器の製造を開始。一貫して「手描き」にこだわり、深みのあるブルーが印象的な「ブルーフラワー」をはじめ、清涼感・透明感のある切子にも似た風合いの「ホワイトライン」、縁に繊細な模様を施した「ローズマリー」、花びらをモチーフにした「マリーゴールド」と、それぞれ趣向を変えたデザインシリーズを展開している。

### 事業のテーマ

## 一珍技法を駆使した繊細な絵付けによる 和モダン食器の開発

### 事業のきっかけ

土を細い針穴から搾り出しながら、素地に盛りあげて模様を描く一珍技法を駆使した、当社ならではの「ホワイトライン」シリーズは、市場でとても高評価を得ている。しかし既存のガス窯ではグレーの発色が思うように出ず、外注に出している状況があった。

### 事業内容・成果

従来の商品は1250℃の還元雰囲気という焼成条件で製造していた。それに対し、今回導入した「横扉式本焼成電気炉」は酸化雰囲気で行うことができる。これにより安定した発色が可能になり、美しいグレーの色が出

るようになった。さらにアイボリーやターコイズブルーなど、柔らかな色も出せるようになり、商品の色のバリエーションが増え、今後も釉薬のバリエーションが無限に広がる可能性を感じている。

また以前は外注先へ運搬する際に破損することが多く、品質検査での不合格が多い、外注先の焼成炉の生産スケジュールにより生産量が決まってしまうなど、様々な問題を抱えていたが、本機導入後は内製化により、それらが一気に解決した。焼成回数が増えた分、生産量も増え、売上が伸びたのは大きな成果であった。

### 今後の展望

コロナ禍で「おうちカフェ」がブームになり、コーヒーセットのニーズが増えており、海外からの注文もある。今後はコーヒーカップやソーサーはもちろん、絵付けを施したセラミックフィルターなども開発し、独自のコーヒーセットを追求したい。

### ものづくり補助金活用

本焼成回数

1ヶ月1回

# 毎日

売上も3割アップ!

外注していたものを内製化できたことで  
コストカットだけでなく、歩留まりの改善など  
自社で工夫できるようになった。